

第 77 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 2019 年 10 月 31 日 (木) 15 : 32 ~ 16 : 45
- 場 所 : 政策研究大学院大学 会議室 3A
- 出席者 :
 - 〔学外委員〕
石田委員、今井委員、奥委員、名取委員、長谷川委員、林(康)委員、板東委員
 - 〔学内委員〕
田中学長、増山理事・副学長、横道理事・副学長、小島理事、園部副学長、高梨副学長、道下副学長、渡邊大学運営局長
 - 〔オブザーバー〕 林(礼) 監事
- 欠席者 :
 - 〔学外委員〕 嶋津委員、林(文)委員、藪中委員
 - 〔学内委員〕 角南学長特別補佐

I. 審議事項

1. 本学における給与改定について

大学運営局長から、2019 年度人事院勧告に対する本学の対応について、国の給与法及び人事院規則が勧告どおり改正されることを前提に、本学教職員・役員の給与・報酬について、住居手当に関する点を除き勧告どおり改定する予定である旨説明があり、これを了承した。

2. 2019 年度学内補正予算について

大学運営局長から、2019 年度学内補正予算について説明があり、これを了承した。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：見かけ上、研究経費や教育経費を減らして、その分を修繕費に充てる形になっている。

△：運営費交付金の枠内で修繕費を捻出する必要があるため、そのようにせざるを得ない。

3. その他

特になし。

II. 報告事項

1. 目的積立金について

大学運営局長から、2018 年度決算剰余金の繰越申請について、全額を目的積立金として積み増しすることが認められた旨報告があった。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：目的積立金の目的はなにか。

△：主にキャンパスネットワーク関係と、中長期修繕を目的とすることを考えている。

○：オペレーションコストである修繕について、このように財源確保する必要があるということか。

△：そのとおり。別途、施設整備補助金の要望も出しているが、老朽化が進んでいる大学も多数あり、本学に補助金が回ってくるのがいつになるか定かでない。

2. SDGs Award について

道下副学長から、SDGs Award の取組み・実施状況について報告があった。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：この事業には経費はどのくらいかかっているか。

△：受賞者を招聘する経費としておよそ 100 万円程度を見込んでいる。なお、追加的な人件費がかかっている訳ではないが、審査にあたり若手教員 4 名の尽力を得ている。

○：寄附金を集めて事業を実施してはどうか。

△：目的別基金に追加することを予定している。

○：Alumni の活性化にも資する取組みである。受賞者のパブリシティにも期待したい。

△：ぜひ検討・ご相談したい。

3. 2019 年度国際学術雑誌掲載奨励制度及び学術書籍出版奨励制度の採択結果について

学長から、2019 年度国際学術雑誌掲載奨励制度及び学術書籍出版奨励制度の採択結果について報告があった。

4. その他

特になし。

Ⅲ. 協議事項

1. 2019 年度秋季修了者及び入学者の状況について

学長から、2019 年度秋季修了者、入学者の概要及びこれまでの日本人修了生、外国人修了生の状況について報告があった。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：アフリカからの入学者が減っている。今後、人口増が見込まれるのはアフリカ、入学者を増やす取組みをしていただきたい。

△：アフリカに関しては取組みを進めたい。また、これまで奨学金をつけて入学させるスタイルをとってきたが、奨学金のリソース低下が入学者減少の一因と考えており、その点の改善も考えたい。

2. 教育プログラムの充実について

学長から、入学者数の回復に向けて、新しいプログラムの開設を検討していることについて報告があった。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：働きながら通える新規プログラムも、新卒や院生に門戸を閉じない方が良いのではないか。

△：新卒向けは他大学に多く存在すること、新卒が混じってどこまでやっていけるかチャレンジングな部分が多いことから、積極的な受入れは想定していない。

△：新卒向けには、国際協力コースの方が向いていると考える。青年海外協力隊経験者などの受入れが考えられる。

○：修士学生が減っていること背景には、コース化、プログラムへの統合を行った影響があるのではないか。新規プログラムの立上げについて、ぜひがんばっていただきたい。

○：GLD の教授陣について、どのように考えているか。

△：アカデミックな教員をそろえるつもりはない。講師の半数以上は外交、通商、国際機関で指導的立場を経験したことがある者を考えている。

3. GRIPS ビジョン 2030 について

局長から、GRIPS ビジョン 2030 について検討中であることの報告があり、学長から、単に文部科学省ヒアリングに向けて検討を行うのではなく、それを越えたビジョンの策定を目指している旨の付言があった。

◆主な意見等は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：素晴らしい。ぜひヒアリング対策を超えたものを策定いただきたい。

以上